

KIRIN



よろこびが
つなぐ世界へ

Joy brings us together



環境省 TCFDシンポジウム

脱炭素経営を通じた企業価値向上に向けて～シナリオ分析と開示の最前線～

2021年3月12日

キリンホールディングス株式会社

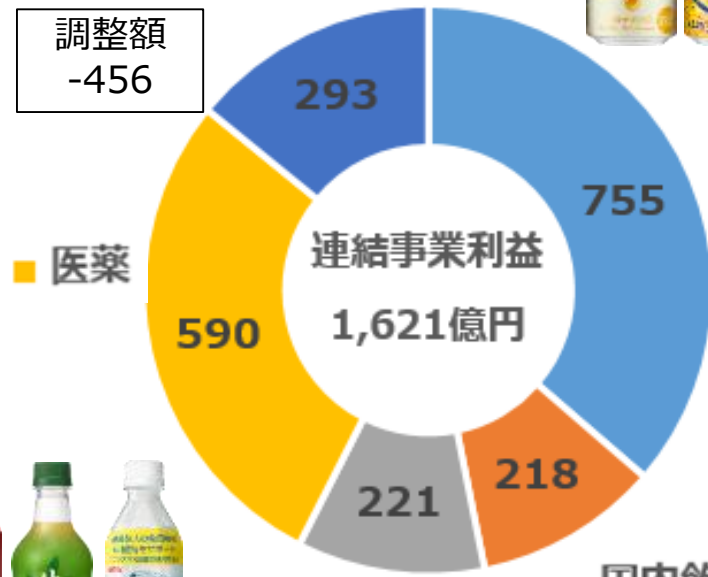
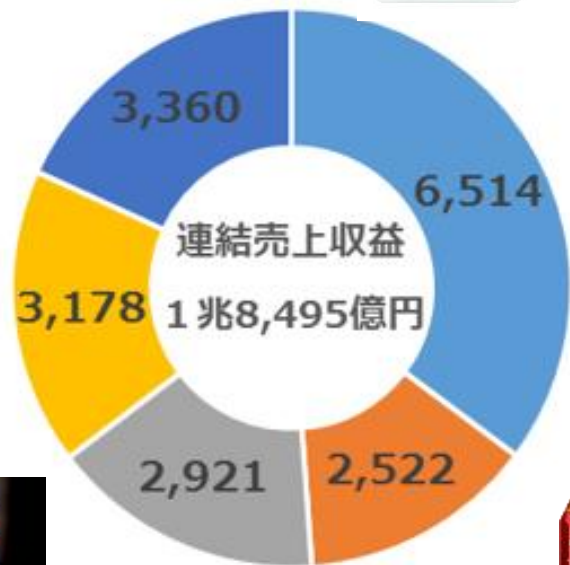
CSV戦略部長

野村 隆治

キリンググループの概要 (2020年12月末時点)



- 酒類・飲料事業や医薬事業、ヘルスサイエンス事業等のユニークなポートフォリオを有する



調整額
-456

資本金 1020億円
従業員 31,040人

注) 調整額：
全社費用及びセグメント間取引消去

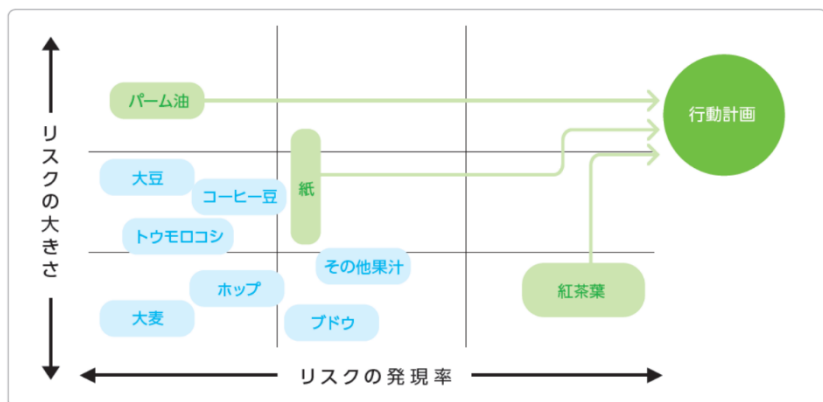
■ 国内ビール・スピリッツ ■ 国内飲料 ■ オセアニア総合飲料 ■ 医薬 ■ その他

TCFD以前のリスクの認識



- 自然資本で成り立っている企業として生物資源・水への意識を持っていた
- 生物資源は2011年頃から、水リスクは2014年から定期的に調査・把握

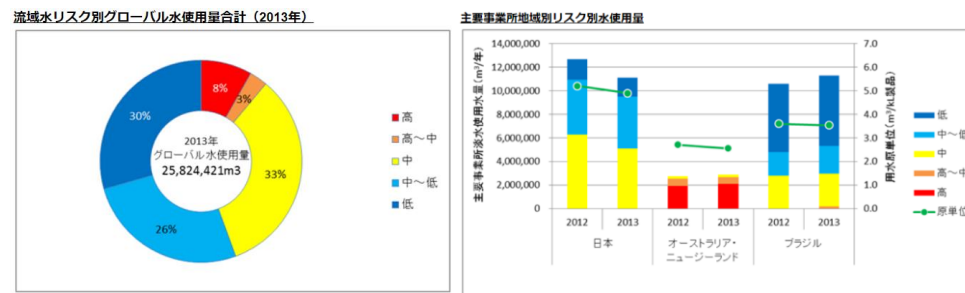
2011～2012年 生物資源リスク調査



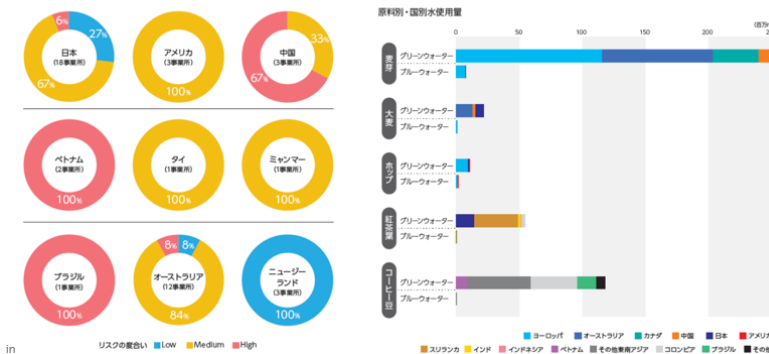
行動計画

- 紙
- パーム油
- 紅茶葉

2014年 自然資本 & 製造拠点水リスク調査



2017年年 バリューチェーン上流 & 製造拠点水リスク調査

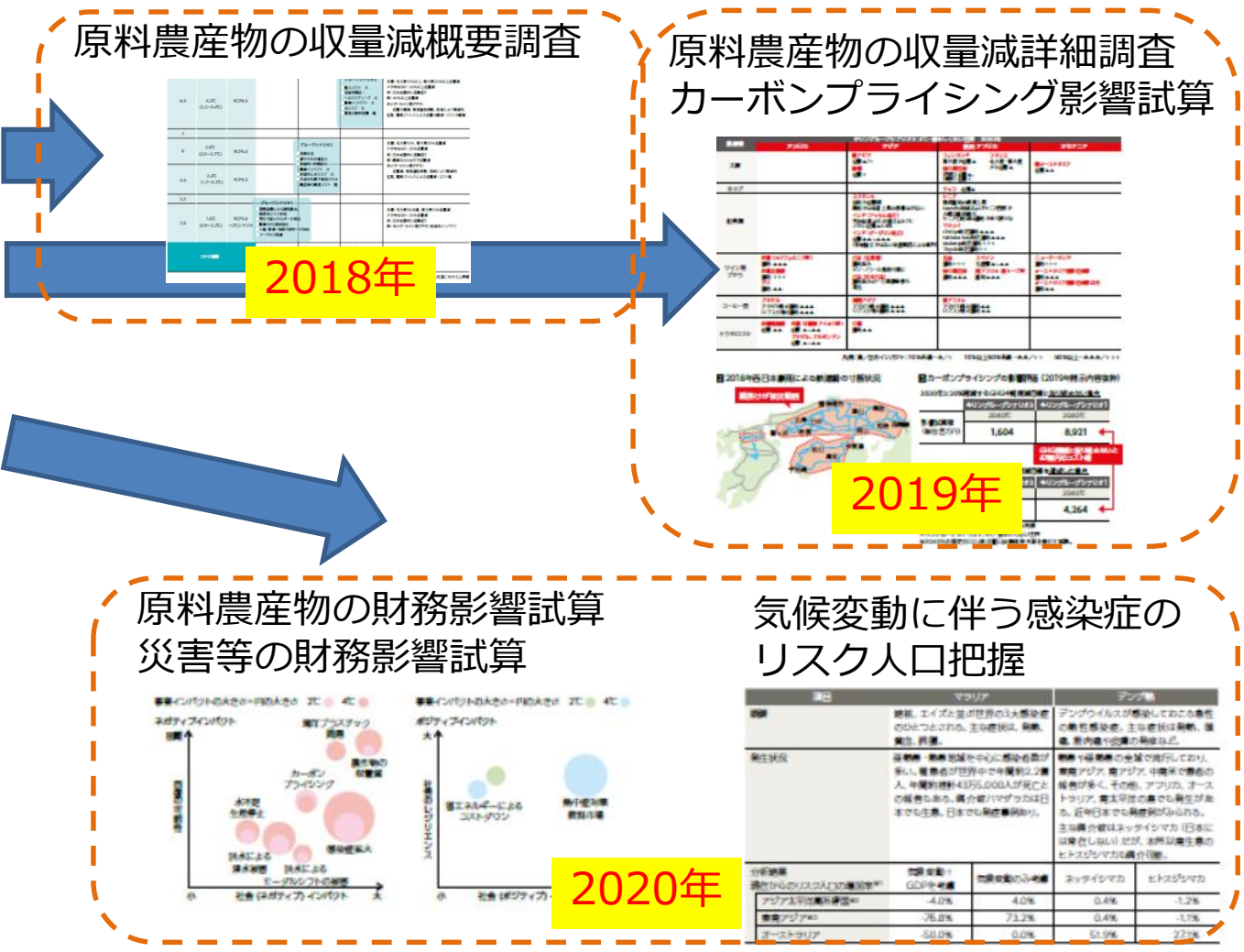


TCFD・シナリオ分析開示進捗



- 2018年にいち早く農産物の収量減の概要調査から実施
- 2019年、2020年と調査を精緻化するとともに、事業機会も把握を開始

2018年	・農産物への影響評価
2019年	・農産物影響の詳細調査・評価・対策の掲示 ・農産物以外の物理的リスク評価 ・グループCSV委員会での経営層の議論
2020年	・財務インパクト評価 ・環境ビジョン2050のレジリエンス評価 ・環境ビジョン2050策定 ・本格的な経営層の議論
2021年	・継続した深堀調査 ・医薬事業で開示開始 ・経営会議等への本格的組み込み
2022年	・継続した深堀調査 ・グループ全体への展開・開示 ・経営戦略との一体化



<https://www.kirinholdings.co.jp/csv/report/env/>

TCFD・シナリオ分析事例

物理的リスク、移行リスク、事業機会の試算を実施している

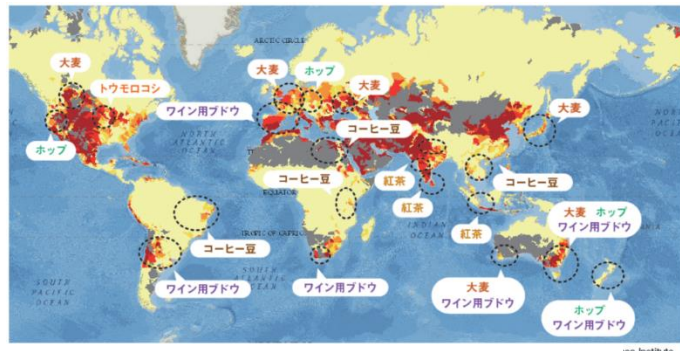
物理的リスク

主要農産物の収量/栽培適地に対する気候変動インパクト

凡例：負/正のインパクト 10%未満 ▲/△ 10%以上50%未満 ▲▲/△△ 50%以上 ▲▲▲/△△△

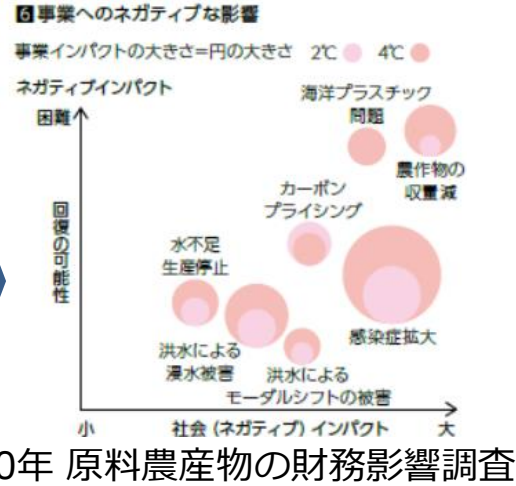
農産物	アメリカ	アジア	東南アジア	オセアニア
小麦	西アジア 収量▲/△ 精選 収量+	インド (アッサム地方) 平均収量 20%も拡大すると17%ほどに収量▲▲▲	インド (ベンガル地方) 収量▲▲▲▲▲▲ (学術論文ではない作産業界による資料)	オーストラリア 収量▲▲▲
ホップ	スリランカ 低地で収量減 高地では収量上昇の懸念は少ない	インド (アッサム地方) 平均収量 20%も拡大すると17%ほどに収量▲▲▲	インド (ベンガル地方) 収量▲▲▲▲▲▲ (学術論文ではない作産業界による資料)	
紅茶	スリランカ 低地で収量減 高地では収量上昇の懸念は少ない	インド (アッサム地方) 平均収量 20%も拡大すると17%ほどに収量▲▲▲	インド (ベンガル地方) 収量▲▲▲▲▲▲ (学術論文ではない作産業界による資料)	
ワイン用ブドウ	米国 (カリフォルニア州) 適地 ▲▲▲▲	日本 (北関東) 適地 大 ▲▲▲	日本 (中央日本) 適地 大 ▲▲▲	ニュージーランド 適地 ▲▲▲
コーヒー豆	ブラジル アラビカ種の適地 ▲▲▲▲	東南アジア アラビカ種の適地 ▲▲▲▲	東南アジア アラビカ種の適地 ▲▲▲▲	
トウモロコシ	米国 (中西部アイオワ州) 収量 ▲▲▲			

2019年 原料農産物の収量減調査



2019年 原料生産地の水リスク把握

<https://www.kirinholdings.co.jp/csv/report/env/>



移行リスク

2030年に30%削減するGHG中期削減目標に取り組みない場合

	キリングループシナリオ3		キリングループシナリオ1	
	2025年	2040年	2025年	2040年
影響試算額 (単位:千USD)	10,944	14,448	51,268	80,374
影響試算額 (単位:百万円)	1,215	1,604	5,691	8,921

2030年に30%削減するGHG中期削減目標を達成した場合

	キリングループシナリオ3		キリングループシナリオ1	
	2025年	2040年	2025年	2040年
影響試算額 (単位:千USD)	8,956	6,905	41,958	38,411
影響試算額 (単位:百万円)	994	766	4,657	4,264

※2025/2040年の想定CO2排出量に炭素価格予測を乗じて試算

2019年 カーボンプライシング影響の試算

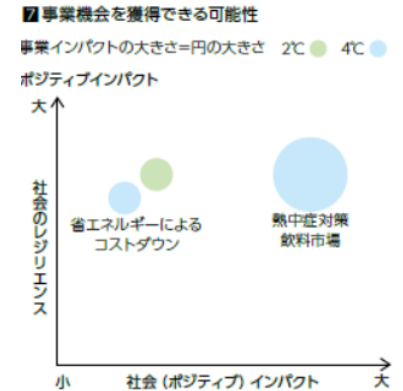
GHG削減に
取り組みないと
47億円の
コスト増

事業機会の試算

2050年 キリングループシナリオ3 (4℃シナリオ) におけるリスクに晒される人口の増加率

項目	マラリア		デング熱	
	気候変動+ GDPを考慮	気候変動のみ考慮	ネットイシマカ	ヒトスジシマカ
概要	絶対、エイズと並び世界の3大感染症のひとつとされる。主な症状は、発熱、貧血、脾腫。		デングウイルスが感染しておこる急性の熱性感染症。主な症状は発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹など。	
発生状況	亜熱帯・熱帯地域を中心に感染者数が多い。罹患者が世界中で年間約2.2億人、年間約推計43万5,000人が死亡との報告もある。媒介蚊ハマダラカは日本でも生息。日本でも発症事例あり。		熱帯や亜熱帯の全域で流行しており、東南アジア、南アジア、中南米で患者の報告が多く、その他、アフリカ、オーストラリア、南太平洋の島でも発生がある。近年日本でも発症例がみられる。主な媒介蚊はネタイシマカ (日本には常在しない) だが、本州以南生息のヒトスジシマカも媒介可能。	
分析結果	現在からのリスク人口の増加率*1		ネットイシマカ	
	アジア太平洋高所得国*2		-4.0%	4.0%
	東南アジア*3		-76.8%	73.2%
	オーストラリア		-50.0%	0.0%
			0.4%	-1.2%
			0.4%	-1.1%
			51.9%	27.1%

2020年 気候変動による感染症・熱中症リスク人口の把握



2020年 事業機会の大きさの試算

- TCFDに関連する開示とその内容により、種々の外部評価を獲得
- TCFD提言に準拠した情報開示で、投資家とのエンゲージメントが促進



CLIMATE



WATER



2020



日経SDGs経営大賞 環境価値賞

TCFDから2020年10月に刊行されたシナリオ分析のガイダンス策定に際してインタビューを受けた世界の15社のうち、酒類メーカー／日本企業として唯一選抜されるなど、キリンのTCFDへの取り組みは海外でも評価されている



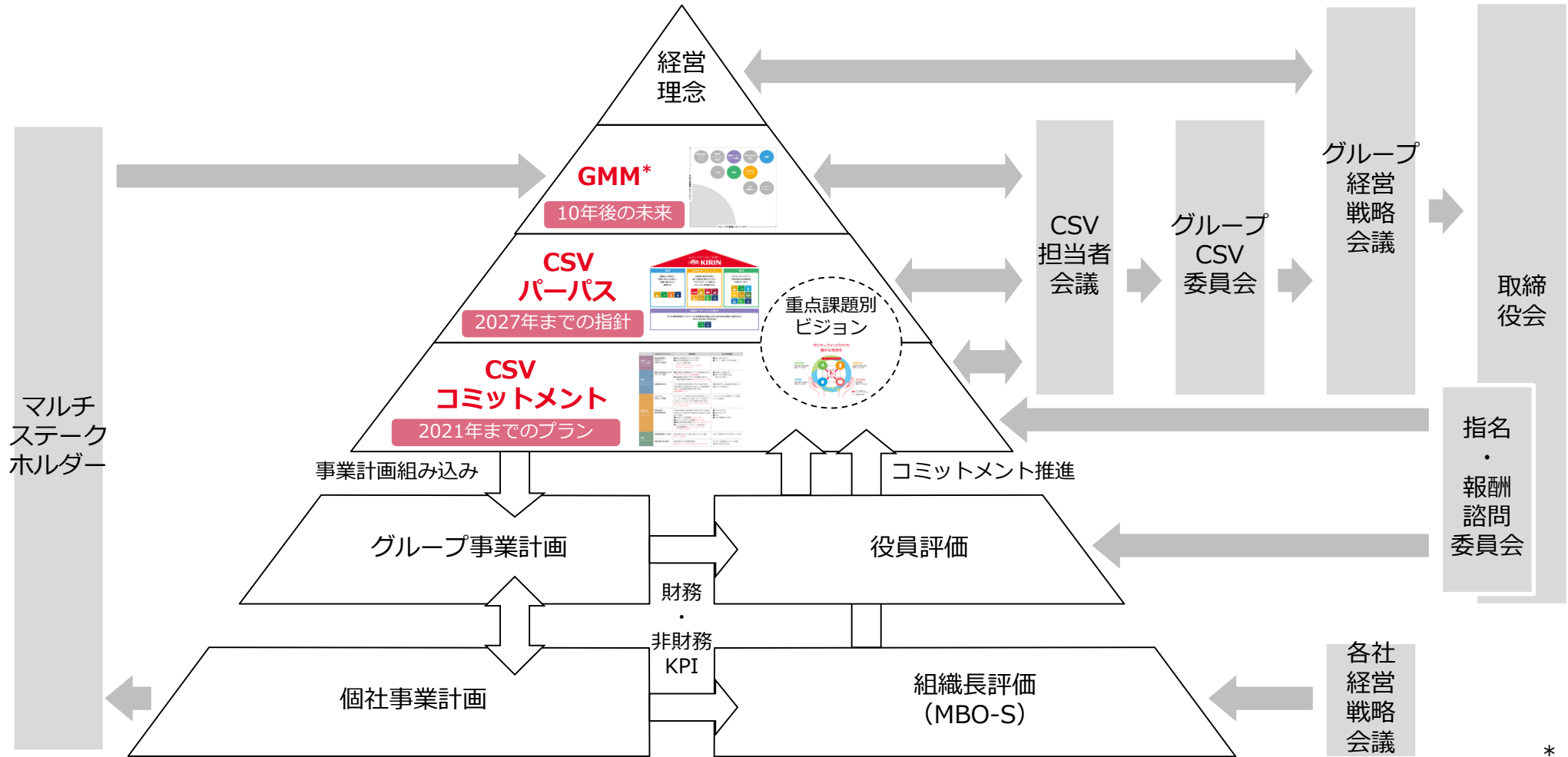
Appendix 4: Interviewed Organizations

Company	Country	Sector
Aurizon	Australia	Transportation
BASF	Germany	Materials
BHP	Australia	Materials
China Power & Light (CPL)	Hong Kong SAR	Utilities
ENEL	Italy	Utilities
Kirin	Japan	Consumer Staples
Lafarge-Holcim	Switzerland	Materials
Lendlease	Australia	Real Estate
Mondi	UK	Materials
Nestlé	Switzerland	Consumer Staples
Olam	Singapore	Consumer Staples
South32	Australia	Materials
Syngenta	Switzerland	Materials
Unilever	UK	Consumer Staples
Vopak	Netherlands	Energy & Industrial

出典：

https://assets.bbhub.io/company/sites/60/2020/09/2020-TCFD_Guidance-Scenario-Analysis-Guidance.pdf

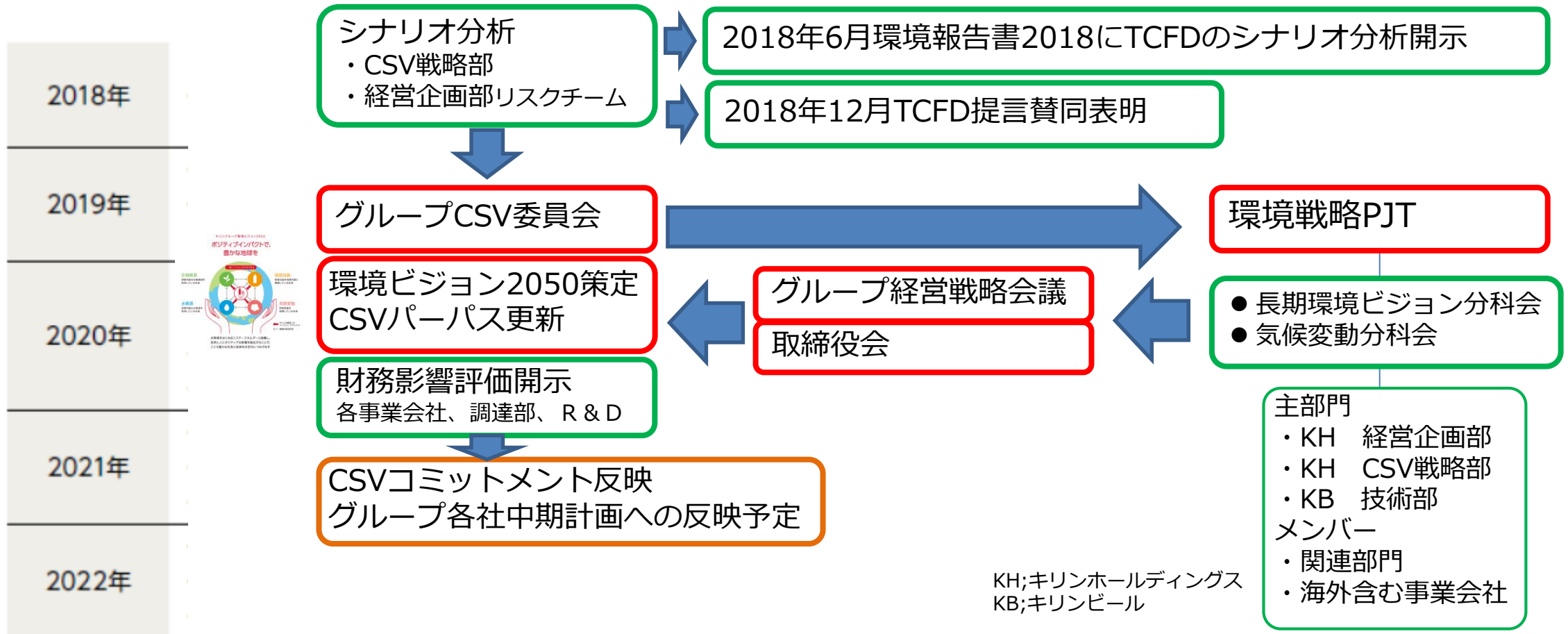
キリングループのCSVガバナンス



* Group Materiality Matrix

TCFD・シナリオ分析推進体制

- 2018年にシナリオ分析を試行開始し、2019年の更なる分析結果を含め経営層に共有
- 環境戦略PJTを立上げ、環境ビジョン2050策定に反映し、バックキャスティングでCSVコミットメントに組み込み、事業展開する



よろこびがつなぐ世界へ

- 地に足を下ろさず、虫を踏まず、草を折らない、と言われている伝説の聖獣「麒麟」
- シンボルにいただく「麒麟」のように、私たちは豊かな自然環境を次世代につなげていきたい



不履生蟲
不踐生草

地に足を下ろさず、虫を
ふまず草を折らない



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together